

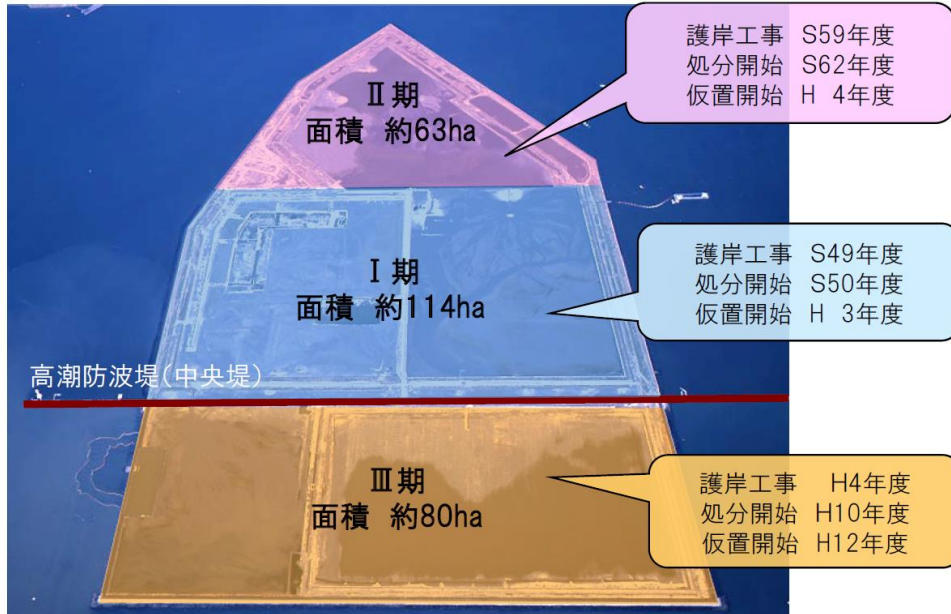
中部国際空港沖公有水面埋立事業について

2021. 8.30

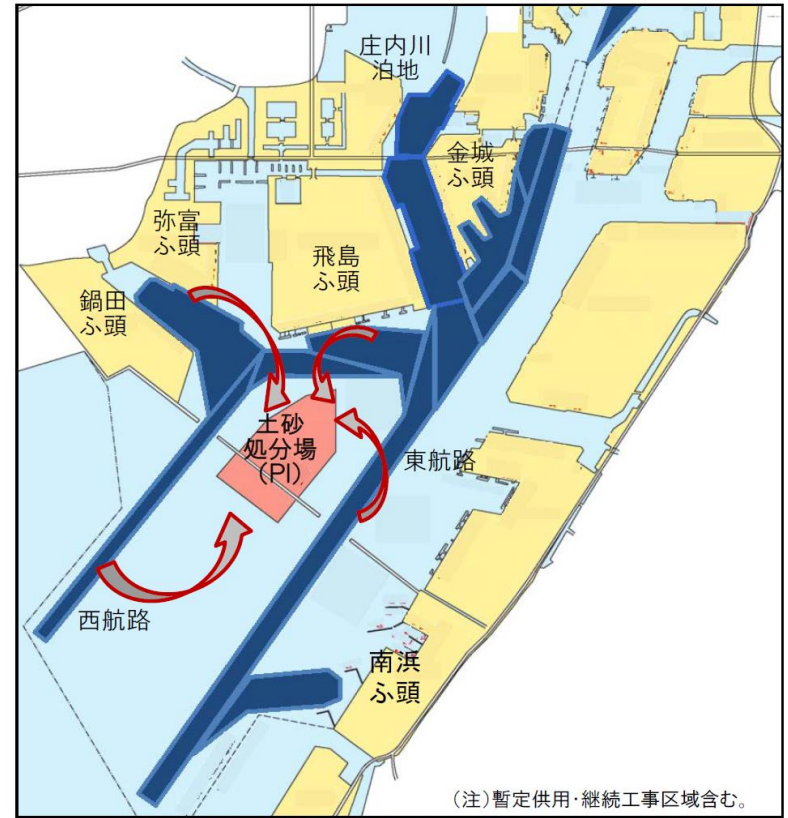
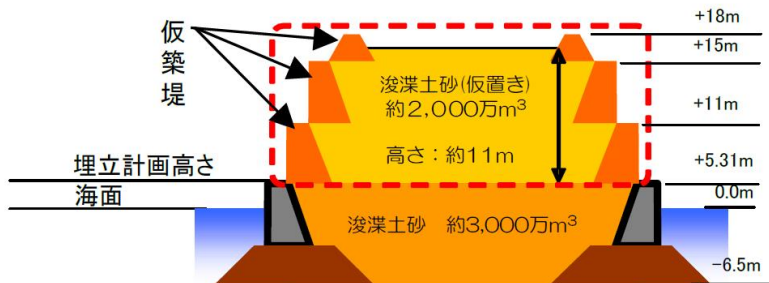
中部国際空港将来構想推進調整会議
検討部会

名古屋港における浚渫土砂の処分について

- 船舶の大型化や取扱貨物量の増加への対応を図るため、港湾施設の整備を順次実施。
- 庄内川(一級河川)から年間約30万m³の土砂が流入しており、岸壁前面の泊地が埋没傾向にある。
- 名古屋港ポートアイランドでは、これらの浚渫土砂を1975年(昭和50年)からの約40年間で約5,000万m³受入。



※処分開始:浚渫土砂の投入開始、仮置開始:埋立計画高以上の積上げを開始

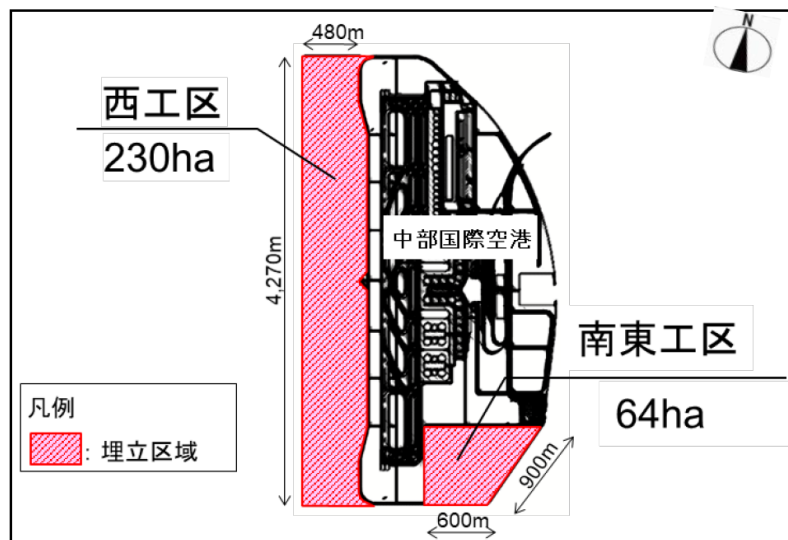


土砂処分場(PI)へ処分している浚渫工事の区域

「中部国際空港沖公有水面埋立事業」に係る公有水面埋立法に基づく埋立承認について

- 名古屋港から発生する浚渫土砂を処分するための新たな土砂処分場の確保が課題。
- そのため、国土交通省では、中部国際空港沖を候補地として環境影響評価書の公告を行い、令和2年4月2日に手続きが完了。
- 令和3年2月2日に中部国際空港沖公有水面埋立承認願書を愛知県へ提出し、令和3年5月25日に承認。

新土砂処分場の概要



1) 諸元

- ①埋立面積:294ha(西工区230ha 南東工区64ha)
- ②埋立土量:3,806万m³
- ③護岸延長:7.0km(西工区5.5km 南東工区1.5km)

2) 埋立土の内訳

埋立土砂等の種類	採取場所	採取量[万m ³]
浚渫土	名古屋港内	1,800
	名古屋港ポートアイランド(仮置土砂(浚渫土))	2,000
	小計	3,800
山土(購入土)	購入土	6
合 計		3,806

3) 整備工程(案)

工事区分		年次						期間
		1~5	6~10	11~15	16~20	21~25	26~32	
西工区	護岸工事	■		■				約12年
	埋立工事	■			■			約13年
南東工区	護岸工事	■		■				約4年
	埋立工事				■			約18年